

## 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2019

著者	東北大学埋蔵文化財調査室
雑誌名	東北大学埋蔵文化財調査室年次報告
巻	2019
ページ	1-35
発行年	2021-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00131251">http://hdl.handle.net/10097/00131251</a>

# Annual report in fiscal year 2019

Archaeological Research office on the Campus,  
Tohoku University

# 東北大学埋蔵文化財調査室

## 年次報告2019



仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点1号井戸出土陶器



# 東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2019



# 東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2019

## 目 次

I. 巻頭言	1
II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要	2
1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査	2
2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設	5
3. 運営委員会・調査部会	6
III. 2019年度（令和元年度）事業の概要	7
1. 埋蔵文化財調査の概要	7
(1) 川内北地区の調査	7
(2) 川内南地区の調査	9
(3) 青葉山地区の調査	11
(4) 富沢地区の調査	20
2. 遺物整理作業	20
(1) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）の整理作業	20
(2) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点（BK15）の整理作業	20
(3) 青葉山E遺跡第10次調査（AOE10）の整理作業	20
3. 年次報告・調査報告の刊行	21
4. 保存処理事業	21
5. 資料保管状況	21
6. 研究活動	23
(1) 受託研究・共同研究等	23
(2) 学会発表等	23
(3) 科学研究費等外部資金採択状況	23
7. 教育普及活動	23
(1) 非常勤講師	23
(2) 取材・協力等対応	23
(3) 構内の文化財・当室の業務内容の紹介	23
(4) 専門知識・技術の提供等を通じた授業・社会貢献	23
(5) 展示活動	24
(6) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等	24
(7) 外部からの派遣依頼	25
(8) その他の広報活動	25
8. 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊』の訂正	25
9. 資料紹介—「仙台陸軍教導学校」『各部隊配置図・国有財産台帳附図』より—	26
《引用・参考文献》	29
IV. 資料	30
1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程	30
2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2019年度）	32
3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2019年度）	32
4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧	33

## 例 言

1. 本年次報告書は、東北大学埋蔵文化財調査室が2019年度に行った埋蔵文化財調査の概要、その他の事業についてまとめたものである。
2. 本年次報告書の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。
3. 図1・2の背景の元図は、それぞれ国土地理院発行の2万5千分の1地形図『仙台西北部』・『仙台西南部』、1万分の1地形図『青葉山』を使用した。
4. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のよう

例 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 1 … 『年報』 1  
『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』 2008 … 『年次報告』 2008  
『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』 1 … 『調査報告』 1

## I. 巻頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2019を刊行いたします。本報告では、当室が2019年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の事業の概要をとりまとめて報告しています。

2019年度も、前年度と同様に大きな発掘調査はありませんでしたが、2016年度から続く長期的な立会調査を実施しています。この立会調査は、仙台城跡二の丸地区である川内南地区において、キャンパス全域に排水設備を巡らすための工事に伴うもので、2019年度は3期目の継続工事となりました。また、青葉山地区で、試掘調査を実施していましたが、とくに遺構・遺物等は確認しておりません。

埋蔵文化財調査室では、これまでの発掘調査の成果を紹介するために、本学附属図書館・史料館のスペースをお借りした展示活動を継続して実施しています。2019年度は2件の展示を行いました。春先には本学附属図書館・史料館と共に新入生歓迎展示を実施しました。秋には本学植物園も含めた展示を、ホームカミングデーに合わせて実施しています。これらの展示より、本学の教職員・学生のみならず、広く一般の方々に、本学の所在する敷地の歴史的背景を知ってもらいたく考えております。これらの展示には、多くの人々にお越しいただき、大変良い評価を頂きました。近年、文化財への関心が高まり、その公開・活用を進めていくことが求められています。埋蔵文化財調査室におきましても、このような展示などを通じて、収蔵資料の利活用を進めていきたいと考えています。

学内外の関係機関や関係者の多大なご協力やご配慮を頂いて、円滑に事業を進めることができております。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後ともご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 藤澤 敦

## Ⅱ．東北大学埋蔵文化財調査室の概要

### １．東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、各キャンパスに加え多くの研究施設があり、これらの構内には多くの埋蔵文化財が存在する（表1、図1）。とくに川内地区は、ほぼ全域が仙台北城跡の二の丸地区と武家屋敷地区にあたっている（図2）。

これらの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）において掘削を伴う工事を行う場合、文化財保護法により届出が義務づけられている。工事の掘削で遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更により遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、発掘調査を行い、記録を作成することで、次善の策とする記録保存という方法が取られている。また、この記録保存のための発掘調査は、経費を原因者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

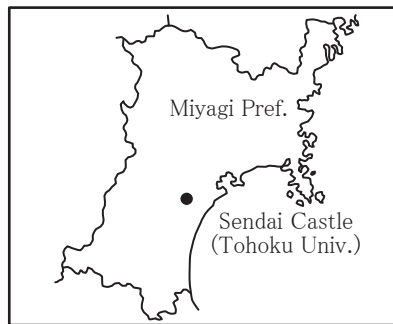
構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に十分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。また、学内に調査組織を設けることにより、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られるという側面もある。

東北大学においても、施設整備を円滑に行うため、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的として、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大学構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が実施してきた。1994年度には、調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置された。2006年度には、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へ改組された。そして、2017年には学内共同教育研究施設等へ再度改組され、事業を引き継いでいる。

表1 東北大学構内の遺跡

団地名	所在地住所	遺 跡 名	県遺跡番号	時 代	備 考
川内1	仙台市青葉区川内27-1・41他	仙台北城跡	01033	近世	二の丸地区・武家屋敷地区・御裏林地区
	仙台市青葉区川内12-2	川内古碑群	01386	鎌倉	弘安10年（1287）・正安4年（1302）
	仙台市青葉区川内41	川内B遺跡	01565	縄文・近世	
青葉山2	仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	青葉山B遺跡	01373	縄文・弥生 古代	
	仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	青葉山E遺跡	01443	縄文・弥生 古代	
青葉山3	仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	青葉山C遺跡	01442	旧石器	
富沢	仙台市太白区三神峯一丁目101	芦ノ口遺跡	01315	縄文・弥生 古墳・古代	
川渡	大崎市鳴子温泉大口字蓬田	上川原遺跡	36006	縄文	
	大崎市鳴子温泉大口字町	丸森遺跡	36038	縄文	
	大崎市鳴子温泉大口字町	東北大農場2・3号畑遺跡	36098	縄文	
	大崎市鳴子温泉大口字町西	町西遺跡	36106	弥生	
小乗浜	牡鹿郡女川町小乗浜	小乗浜B遺跡	73021	縄文	宿舎裏の山林部分





# Sites in Tohoku University

- 1 : Sendai Castle Ruins
- 2 : Kawauchi steles
- 4 : Kawauchi B Site
- 6 : Aobayama B Site
- 7 : Aobayama E Site
- 8 : Aobayama C Site
- 11 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡 8 : 青葉山C遺跡
- 9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 芦ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六太日如来の碑 14 : 葛岡城跡 15 : 郷六城跡
- 16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六遺跡 20 : 松ヶ丘遺跡 21 : 向山高裏遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡
- 24 : ニツ沢横穴墓群 25 : 萩ヶ岡B遺跡 26 : 八木山緑町遺跡 27 : ニツ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 青山二丁目B遺跡
- 30 : 杉土手(鹿除土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳 33 : 二塚古墳 34 : 富沢遺跡 35 : 泉崎浦遺跡 36 : 金洗沢古墳 37 : 土手内窯跡
- 38 : 土手内遺跡 39 : 土手内横穴墓群 40 : 三神峯遺跡 41 : 金山窯跡 42 : 三神峯古墳群 43 : 富沢窯跡 44 : 裏町東遺跡 45 : 裏町古墳
- 46 : 原東遺跡 47 : 原遺跡 48 : 八幡遺跡 49 : 後田遺跡 50 : 町遺跡 51 : 紙流山遺跡 52 : 御堂平遺跡 53 : 上野山遺跡 54 : 北前遺跡
- 55 : 佐保山東遺跡 56 : 川内C遺跡 57 : 経ヶ峰伊達家墓所 58 : 川内武家屋敷遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡







## 2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

当室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および保存処理を含めた整理作業を担当する作業員5名（時間雇用職員通年3名、半年2名）からなっている（表2）。本年度も規模の大きな発掘調査がなかったが、その様な調査を実施する際には、発掘調査に従事する作業員（時間雇用職員）を雇用している。

当室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の人件費のほか、複写費貸借料費等の役務費、自動車維持費、消耗品費、福利厚生費等である。

発掘調査が実施される場合は、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。その中から、作業員賃金や機器類リース費、消耗品費などを支出することになる。

また、発掘調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員4名の賃金も、ここから支弁されている。

当室の主要な業務は、2011年度より片平キャンパス本部棟4（D08）の1階（212㎡）にて実施している。その中に、室長室兼事務室、調査員室、作業室、予備室、収蔵庫を設置している。この収蔵庫は、出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料や、これまでの調査図面や写真フィルムなどの重要な資料を保管している。作業室は、実測などの作業をはじめとする整理作業を行う部屋で、報告書などの文献を保管している書架も置いている。予備室は、写真撮影や小規模な打ち合わせなどを行う補助的なスペースとしている。

現在、これらの施設の中で課題となっているのは、収蔵庫に保管している過去の調査図面やスライド・ネガフィルム等の劣化に関する問題である。収蔵庫は、通常の教室を改修したものであり、太陽光は遮断できる状況ではあるものの、収蔵庫として適切な環境とは言えない。そのため、これらの資料の経年劣化は避けられないものと考え、アナログ資料のデジタル化作業を進めている。最も良い対策は、収蔵庫を適切な環境となるように改修すべきであるが、予算などの都合上やむを得ないと考えている。今後、収蔵庫の温湿度のデータをとりつつ注意深く経過を観察する必要がある。

また、2001年度より木製品・金属製品等の保存処理作業を行う保存処理作業棟（プレハブ平屋建・79㎡）が、同じ片平キャンパス内の生命科学研究科本館（D05）の南西側に設置された。その他には、保存資料作業棟北側のガレージの一部（34㎡）を使用し、当室の公用自動車を保管しているほか、発掘調査用機材も保管している。2003年度には、出土遺物の収蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202㎡）を保存処理作業棟の南側に設置し、報告書掲載以外の遺物等を保管している。今後は、東日本大震災以降において急増した発掘調査の整理作業の進行と共に、これらの遺物の保管場所は手狭になることを予想しており、収蔵遺物の密集化、新たなスペースの確保等が必要となっている。

表2 2019年度埋蔵文化財調査室職員

職 名		氏 名 等	備 考
調査室長	総合学術博物館	藤澤 敦	併任
文化財調査員	特任准教授	菅野 智則	
	専門職員	柴田 恵子	
	専門職員	石橋 宏	
事務補佐員	時間雇用職員	武山 里菜	埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員	5名（通年3名、半年2名）	全学的基盤経費を財源とした職員

### 3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、埋蔵文化財調査室規程第6条に基づき運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、同規定第9条に基づいて運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されている。当調査室は、これらの委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会は年度当初に一回開催し、年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2019年度は、運営委員会を2019年6月10日に実施した。運営委員会の議事内容は、以下の通りである。この運営委員会では、下記のような内容が審議された。

埋蔵文化財調査室運営委員会（2019年6月10日、於：施設部会議室）

#### 審議事項

- （1）平成30年度埋蔵文化財調査結果及び令和元年度の埋蔵文化財調査計画
- （2）平成30年度調査室運営費決算及び令和元年度調査室運営費予算
- （3）平成30年度の整理作業結果及び令和元年度の整理作業計画
- （4）その他

#### 報告事項

- （1）広報・活用事業
- （2）受託研究
- （3）その他

### Ⅲ. 2019年度（令和元年度）事業の概要

#### 1. 埋蔵文化財調査の概要

2019年度は、立会調査7件、試掘調査1件を実施した（表3）。本学敷地内の立会調査に関しては、2009年度途中から、仙台市教育委員会の指示に従い、当室が立会調査を行っている。

川内北地区では、駐輪場舗装等工事に伴う立会調査があった。

川内南地区では、前年度より引き続き、川内南地区雨水排水改修工事に伴う立会調査を行った。この調査は、近年多発している集中豪雨や規模の強い台風等に対応するためのものである。その他には文科系厚生施設北側の污水管改修工事に伴う立会調査と、植物園本館駐車ゲート横看板更新工事及び植物園内の観察路脇タニウツギの移植工事に伴う立会調査があった。

青葉山地区では、放射線管理棟等改修工事に伴う試掘調査1件を実施している。

富沢地区では、給水管の漏水復旧工事に伴う立会調査が2件あった。

東日本大震災以後、大規模な開発事業が一段落し、建物等の施設改修や自然災害に対する備えに関する事業が増えている。今後、この様な状況が続くものと想定できる。学内関連機関のほか、仙台市教育委員会、宮城県教育委員会等と緊密に協議しながら、埋蔵文化財を保護するために調整・対応を推進していきたい。

#### (1) 川内北地区の調査

川内北地区では立会調査1件を実施している（図3）。

#### ・屋外環境整備（駐輪場舗装等）工事（2019-5）

川内キャンパスの駐輪場不足を解消するため、川内体育館東側に駐輪場を整備することになった。駐輪場工区東側は、地下鉄東西線工事においてすでに掘削された範囲にあたる。その範囲を除いた新規工区は、電気配管や現在のアスファルト舗装部分は浅い掘削であるが、外灯基礎は掘削深度が1.4mと深く、近世の遺構が確認される可能性があった。駐輪場の外灯基礎部分の掘削は、体育館倉庫設置に伴う造成土の範囲内に収まり、特に問題なかった。

表3 2019年度調査概要表

調査の種類	地区	調査地点（略号）	原因	調査期間	面積（㎡）
試掘調査	青葉山	巨大分子解析研究センター西側・放射線管理棟西側・RI棟周辺（2019-4）	（青葉山2）RI棟等改修その他工事	2019/12/16-20	37.07
調査	川内南	文科系総合講義棟周辺・文学研究科棟周辺・法学部研究棟周辺・附属図書館周辺（2018-4）	（川内1）川内南地区雨水排水改修工事Ⅲ	前年度より継続 2019/4/23-25・27・5/7-9・6/7-8・11-15・17-19・7/1-3・5・8-11	-
	富沢	研究棟南側（2019-1）	（富沢）電子光理学研究センター漏水復旧工事	2019/7/29	-
	川内南	植物園本館東側（2019-2）	（川内1）植物園本館駐車ゲート横看板更新工事	2019/10/23	-
	川内南	文科系厚生施設北側（2019-3）	（川内1）南地区厚生施設外部污水排水管修繕工事	2019/9/26	-
	川内北	体育館倉庫東側（2019-5）	（川内1）屋外環境整備（駐輪場舗装等）工事	2020/2/4	-
	川内南	植物園内東側（2019-7）	（川内1）植物園タニウツギ移植工事	2020/3/3	-
	富沢	電子光理学研究センター西側（2019-8）	（富沢）電子光理学研究センター漏水復旧工事	2020/2/7	-



図3 川内北地区調査地点



## (2) 川内南地区の調査

川内南地区では立会調査4件を実施している(図4)

### ・川内南地区雨水排水改修工事Ⅲ(2018-4)

近年の集中豪雨により、植物園裏の青葉山からの雨水が大量に溢れ出し、川内南キャンパス南西部全体の雨水排出が機能していない状況が見受けられた。これは、埋設配管や集水桝等の雨水排水経路が、経年劣化のためのずれや破損、あるいは破損箇所から樹木の根が入り込むことによる詰まり等によるものと考えられた。この問題を解決するため、既存の雨水排水管等を撤去し、新たな雨水排水経路を敷設する4ヶ年の工事計画が策定され、2016年度から工事が開始された。本工事は4ヶ年の工事計画のⅢ期工事である。

川内南キャンパスは国指定史跡仙台北城跡の二の丸地区に該当し、仙台市による『仙台北城跡整備基本計画』(仙台市教育局生涯学習部文化財課2005)においては、「仙台北城跡整備基本構想対象地域」内に位置し、将来的に国指定史跡を目指す第四種保存地区に指定されている地域である。2018年10月26日当調査室と施設部担当係(建築第二係、建築マネジメント係)が仙台市教育委員会生涯学習部文化財課に赴き、掘削の内容や埋蔵文化財に与える影響等について協議した。その協議を踏まえ、当工事を着工することになった。

前年の2018年度の立会調査は2019年1月10日から3月28日まで断続的に実施し、W路線とU路線の一部は2019年度に持ち越しとなった。2019年度の立会調査は、2019年4月23日から7月11日まで断続的に実施した。W路線は、新規の桝・管と入れ替えのため0.8m程度掘削したが、既存管の掘方内か、米軍期ないし現代の造成土の範囲内で収まり、特に問題はなかった。U路線は、折りたたまれた形状記憶硬質塩化ビニール管を既存管内に入れて、蒸気で円形に復元するオメガライナー工法を採用し、既存管は再利用することとなった。掘削は、既存桝の撤去に伴うものと、TVカメラ調査で、管内のズレや破損した箇所から侵入した樹木の根の詰まり等が確認された箇所の、管入れ替え工事に伴うものである。管ズレや根詰まり箇所等が多く、桝以外の管路の掘削が増えたが、掘削は、既存管・桝の掘方や既存建物の造成土内に収まり、特に問題はなかった。

### ・植物園本館駐車ゲート横看板更新工事(2019-2)

植物園入り口の駐車場ゲート横の木製案内板は老朽化が進んでおり、この案内板を撤去し、学内で統一したデザインの案内板を設置することとなった。新しい案内板の基礎設置に伴い0.4m程度の掘削を行ったが、現代の造成土の範囲内に収まり、特に問題はなかった。

### ・南地区厚生施設外部汚水排水管修繕工事(2019-3)

川内南地区の厚生施設外部の埋設汚水管が経年劣化のため、ずれや破損、あるいは破損箇所から樹木の根による詰まりが頻発し、汚水が地表面に溢れ出す事態となった。このため、既存汚水管の破損箇所を外部からコンクリートで補充することとなり、破損箇所を掘削した。掘削は既存管の掘方内に収まり、特に問題はなかった。

### ・植物園タニウツギ移植工事(2019-7)

植物園の栽培区画であるロックガーデン近傍に、タニウツギ(*Weigela hortensis* (Siebold et Zucc.) K. Koch)の個体が自生している。青葉山の自然林は、常緑広葉樹林帯と落葉広葉樹林帯の境界領域にあり、太平洋側と日本海側の2つの要素が同所的に見られることが特徴で、本種は日本海側に主として分布するが、ここ太平洋側にも見られるという点で、この個体は、本園の植物分布の特徴を示す標本木・展示木として重要である。現在、本沢左岸の観察路沿いに生育し、樹幹が観察路上に斜上に著しく、入園者の歩行や災害復旧工事の支障となっている。さらに、度重なる土砂災害により、樹勢も弱くなっているため、移植により樹形を修正し、同時に樹勢の回復を図ることとなった。本立会調査は、根鉢及びその周辺を根茎の形状にそって0.5m程度の掘削を行った。掘削は表土の範囲内に収まり、特に問題はなかった。

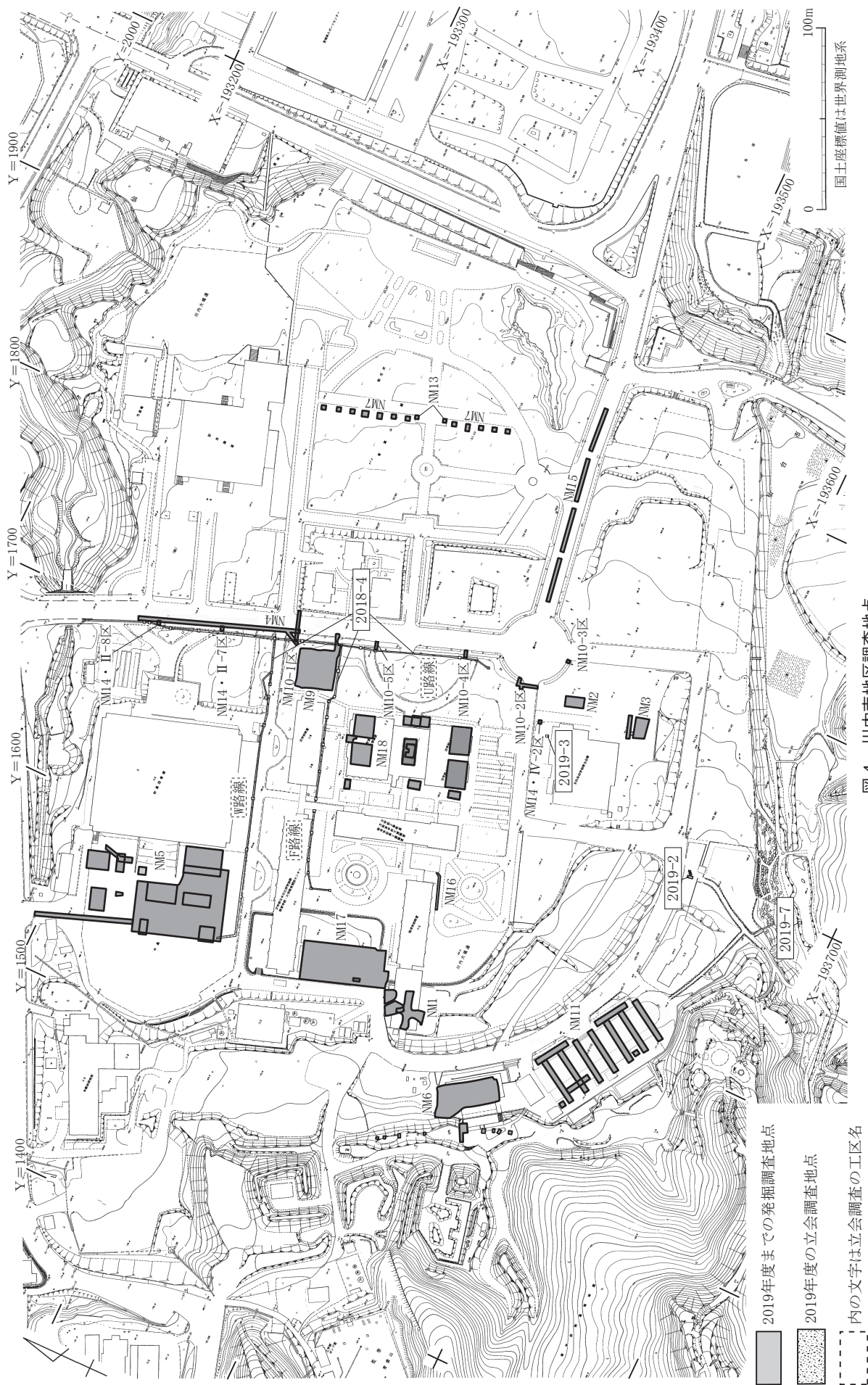


図4 川内南地区調査地点



### (3) 青葉山地区の調査

青葉山地区では、試掘調査1件を実施している(図5)。

#### ・RI棟改修その他工事(2019-4)

RI棟・放射線管理棟・巨大分子解析研究センターの3棟の改修工事を行うものである。これらの建物は、青葉山E遺跡範囲内にあたる(図1)。改修工事のため大規模な土地造成等は発生しないが、RI貯留槽の新設や各建物の外構工事における新規ハンドホール設置において、深めの掘削箇所が存在する。今回の工事範囲(図6)は、これまでの調査成果から、既に掘削されていると考えられるが、念の為、これらの深めの掘削が生じる場所について、事前に調査することとした。重機を用いて表土及び近現代の盛土を除去した後に、人力で精査し、包含層や遺構等の確認を目的とした。

今回の調査では、各掘削地点が離れる箇所があるため、調査区を5区(合計37.07㎡)に区分(図6)した。巨大分子解析研究センターのハンドホール部該当箇所を1区、放射線管理棟北東側の検水桝該当箇所を2区、放射線管理棟西側のハンドホール部該当箇所を3区、RI棟南側の複数のハンドホール該当箇所をまとめて4区とし、RI棟北側の分配槽設置地点と新規配管箇所の2箇所をまとめて5区とした。

本調査は、12月16日から重機による表土掘削を開始し、16日に1・2区、17日に3区、18~19日に4区、20日に5区と順次進めた。当初の予想通り現代と近代の盛土が厚く、地山層の上部もかなり削平されており、縄文時代以降の包含層や遺物は全く確認できなかった。1区から5区の調査区図面・写真等の記録類を全て作成し、20日に調査を終えた。

#### ・調査区ごとの概要

##### 1区:(図6):巨大分子解析研究センター西側(2.23㎡)

外構工事として電気配管等が建物周囲を巡る。その中で掘削深度が深い地点は、建物の北西隅に隣接して設置されるハンドホール部(GL-1.3m)である。これまでに、本建物の新営の際に青葉山E遺跡第2次調査として発掘調査を行っている(AOE2:『年報』2)。今回のハンドホール部は、当時の調査区の北西隅に隣接しているが、その北西隅は深い攪乱があったことが判明している。また、2010年度にその東側の超伝導核磁気共鳴装置室新営の際に、試掘調査を行った(『年次報告』2010)。その結果、調査区全面に愛島軽石層が広がることが確認でき、上部の堆積層等は既に削平されていることが明らかとなった。これらのことから、ハンドホール部も既に削平されている可能性が非常に高いと推定した。

今回の調査では、当初2m四方のグリッドを予定していたが、配管等の都合から1.5m四方のグリッドを設定し、ハンドホール設置に必要な深さ1.5mまで掘り下げた。調査の結果、全てが現代の攪乱土であることが判明した。第2次調査時でも確認できた攪乱が続いているものと考えられる。写真・図面の掲載は省略した。

##### 2区:(図6、図7-1、図9-1・2):放射線管理棟北東側検水桝部(6.3㎡)

検水桝は、放射線管理棟・理学研究科合同A棟と高温高圧実験棟の間の道路上に設置される。その道路より南側は、青葉山E遺跡第4次調査区にあたる(AOE4:『年報』13)。この調査における遺構検出面は、検水桝を設置する道路面より2m以上高く、道路面はすでに削平されている可能性が考えられた。

今回の調査では、3m×2mの調査区を設置し、重機にて0.5m程掘り下げた時点で地山層を確認した。北側に攪乱が認められたことからさらに1.5m程掘り下げ、地山層を数枚確認したが、川崎スコリアを含む層等は確認できなかった。

##### 3区:(図6、図7-2、図9-3・4):放射線管理棟西側ハンドホール部(3.3㎡)

計画されているハンドホール部は建物から近いこともあり、既に削平されている可能性が高い。また、この地点の北側近辺では、2012年度に道路外灯取設工事の際に電気ケーブル埋設のための掘削がなされているが、既に削平を受けていたため、縄文時代以前の包含層等は確認されていない(『年次報告』2012)。

今回の調査では、2 m四方のグリッドを設置して掘り下げたが、壁面が脆いため調査区を狭めた。1.2mまで掘り下げた時点で愛島軽石層を確認した。西側には攪乱が認められる。

#### 4区：(図6)：RI棟南側

この地点では、新設電気配管のための掘削がなされる計画であった。その中でとくに掘削が深いものとしては、複数のハンドホール部（GL-1.3m）がある。

このハンドホール部南側、現在受水槽となっている地点において青葉山E遺跡第5次調査が実施されており、縄文時代の土坑等が確認されている（AOE5:『年報』14）。この第5次調査地点は、ハンドホールを設置する現在の道路面より3 m程高い地点となっており、この道路部は既に削平されている可能性が高い。その場合、現在の道路部は、愛島軽石層より下部の高さとなる。

今回の調査では、ハンドホール部が設置される場所として4a～4e区の5箇所の調査区を設置した。

- ・4a区（2.27㎡、図7-3・4、図9-5・6）：1.5m四方のグリッドを設置した。0.25m程度掘り下げた時点で愛島軽石層を検出した。3層上面では、クラックを確認した。
- ・4b区（2.4㎡、図8-1・2、図9-7・8、図10-1）：4a区と同様の状況であった。2層（愛島軽石層）下の3層上面にて、クラックを確認した（図9-8）。
- ・4c区（2.36㎡）：1.5m四方のグリッドを設置した。ハンドホール設置に必要な深さである1.5mまで掘り下げたが、全て現代の攪乱であった。写真・図面の掲載は省略した。
- ・4d区（2.27㎡、図8-3・4、図10-2・3）：4c区の南東側に同規模で設置した調査区である。4a・4b区と同様に現代の整地層直下から愛島軽石層を確認した。北側に攪乱が認められたため、1.5mまで掘り下げた。底面で青葉山段丘礫層を確認した。
- ・4e区（7.5㎡、図8-5、図10-4・5・6）：複数のハンドホールを設置することから、L字形に調査区を設定した。調査区南側は、既存の電気配管等が入り、その底部には愛島軽石層を確認した。北側は、アスファルト下の碎石直下から地山となる。

#### 5区：(図6)：RI棟北側

この地点では、既存埋設RI貯留槽や配管等の撤去が行われ、新たに地上に貯留槽や各種配管が設置される。それに伴い、新規掘削が発生する場所もある。

この地区では、2012年度に気送管基礎掘削のための立会調査が行われており、既に建物基礎等により削平されていることが判明している（『年次報告』2012）。建物以外にも既設の槽・管等も既に多く密に設置されており、この地区一帯は既に削平されている可能性が高い。

その様な状況ではあるが、既設管等がない分配槽設置地点（GL-3.6m）と、新規配管箇所（GL-1.2m）の2箇所について、それぞれ土層の堆積状況を確認することを目的とした。

- ・5a区（3.94㎡）：2 m四方のグリッドを設置した。建物によるものと考えられる攪乱が深さ1.5mまで続くことを確認し、調査を終了した。写真・図面の掲載は省略した。
- ・5b区（4.5㎡、図10-7・8）：2 m四方のグリッドを設置した。重機による掘り下げを開始した直後から各種の配管が確認され、0.6m程度掘り下げた時点で地山層を確認した。周囲の攪乱が著しく、地山層は一部のみ残っていた。
- ・調査成果

今回の調査では、遺物・遺構等は全く確認できなかった。また、当初の想定通りに地山層の上部もかなり削平されており、遺物包含層等も全く確認できなかった。今回調査したハンドホール部等を繋ぐ配管工事の際にも同様の状況となることが想定できる。



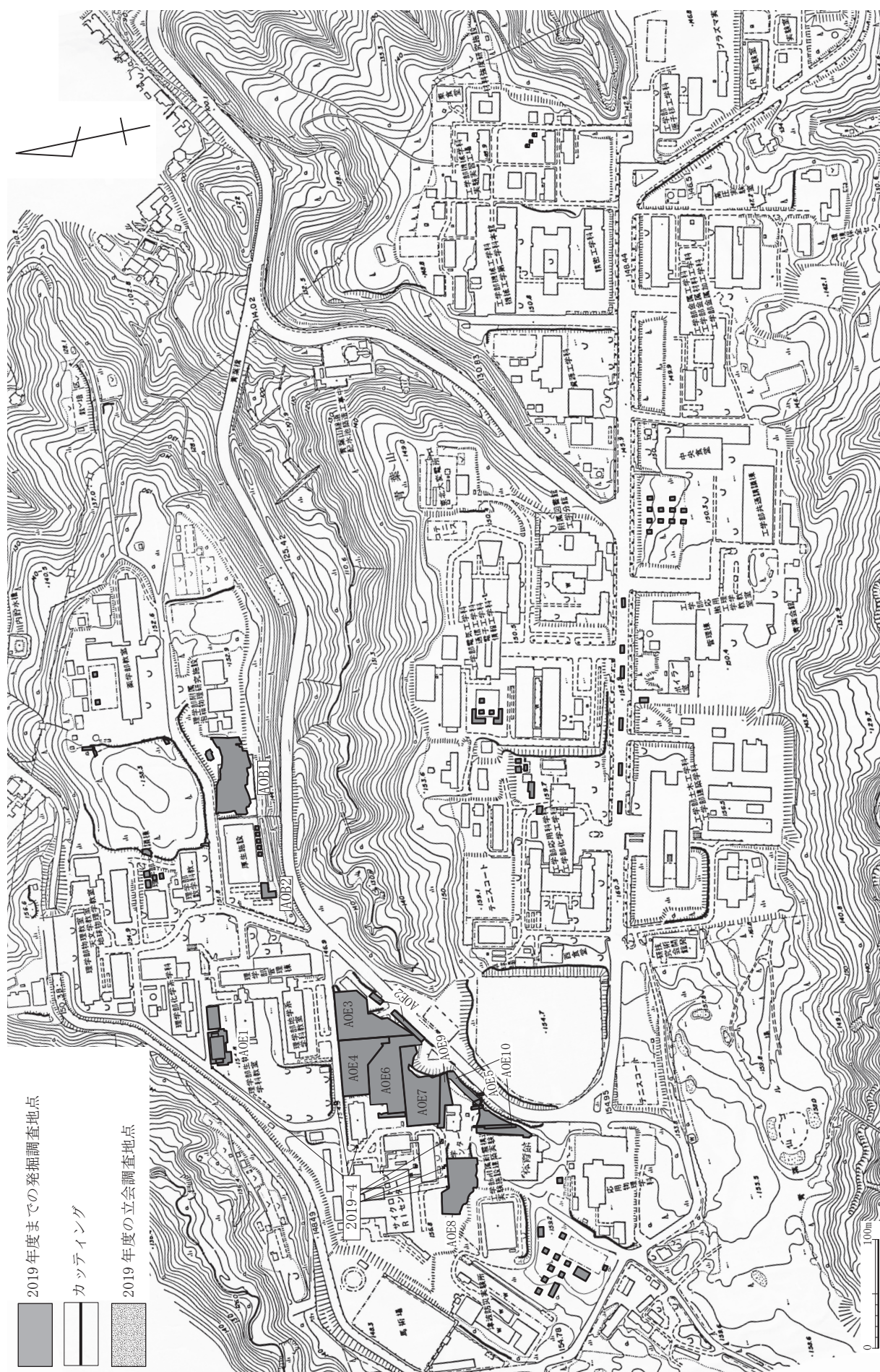
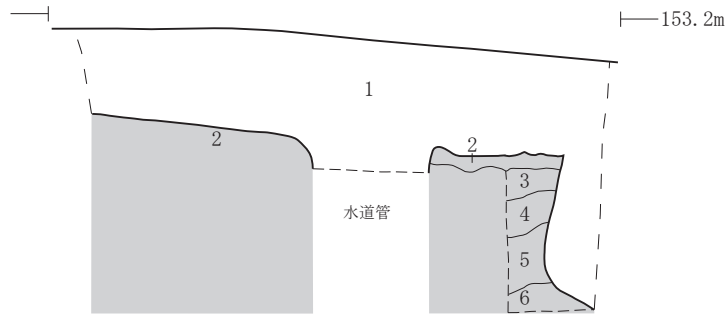


図5 青葉山地区調査地点





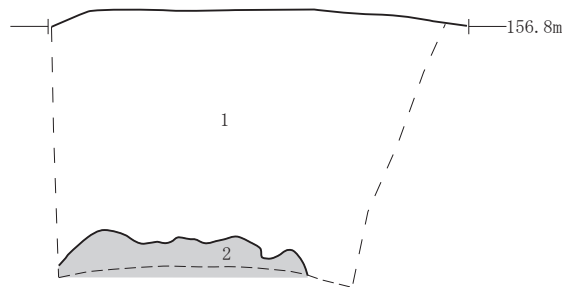


1. 2区西壁

1 現代の盛土等

地山層

- |   |          |      |    |          |                       |                       |
|---|----------|------|----|----------|-----------------------|-----------------------|
| 2 | H10YR5/8 | 明黄褐色 | 粘土 | 粘性強・しまり強 | マンガン粒をやや多く含む          | 径5mm程のスコリアをごく少量含む     |
| 3 | H10YR4/6 | 褐色   | 粘土 | 粘性強・しまり強 | マンガン粒を多く含む            |                       |
| 4 | H10YR5/8 | 黄褐色  | 粘土 | 粘性強・しまり強 | マンガン粒を少量含む            | 径2-3mmの白色・黄色土粒を含む     |
| 5 | H10YR6/6 | 明黄褐色 | 粘土 | 粘性強・しまり強 | 径3mm程の大きめのマンガン粒を斑状に含む | 径0.5-1cmの赤褐色スコリアを少量含む |
| 6 | H10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘土 | 粘性強・しまり強 | 径2-3mm程のマンガン粒を少量含む    |                       |

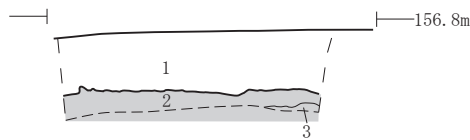


2. 3区南壁

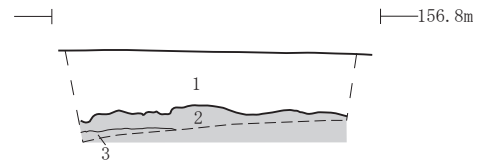
1 現代の盛土等

地山層

- |   |          |      |        |            |                    |                  |       |
|---|----------|------|--------|------------|--------------------|------------------|-------|
| 2 | H10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強・しまり強 | 径0.3-1cm程の風化した礫を含む | マンガン・白色土粒をわずかに含む | 愛島軽石層 |
|---|----------|------|--------|------------|--------------------|------------------|-------|



3. 4a区南壁



4. 4a区西壁

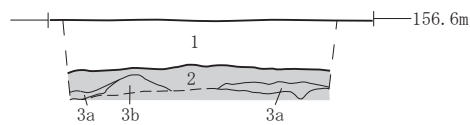
1 現代の盛土等

地山層

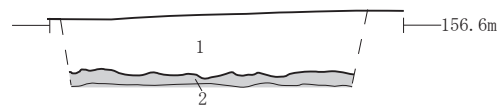
- |   |          |      |       |          |                    |            |           |
|---|----------|------|-------|----------|--------------------|------------|-----------|
| 2 | H10YR7/8 | 黄橙色  | 砂質シルト | 粘性弱・しまり強 | 径0.5-2cm程の風化した礫を含む | 愛島軽石層      |           |
| 3 | H10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘土    | 粘性弱・しまり強 | 部分的に明黄褐色の粘土を含む     | 斑状にマンガンを含む | 上面にクラックあり |
- 所々に凹みがあり、黄褐色粘土を部分的に含む

0 1m  
S=1/40

図7 青葉山地区確認調査状況2

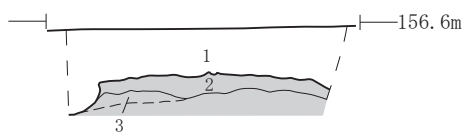


1. 4b区南壁

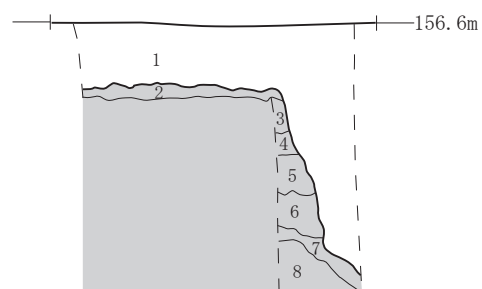


2. 4b区西壁

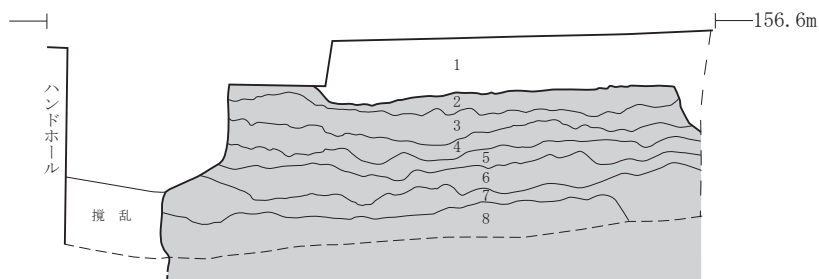
1	現代の盛土等				
地山層					
2	H10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	粘性弱・しまり強	径0.5-2cmの軽石を多く含む マンガン粒を少量含む 愛島軽石層
3a	H10YR5/8	黄褐色	粘土	粘性強・しまり強	マンガン粒を多く含む 径1-2mmの黄色バミスをごく少量含む
3b	H10YR6/8	黄褐色	粘土	粘性弱・しまり強	部分的に明黄褐色 (H10YR7/6) 粘土を含む 上面に斑状にマンガンを含む 上面にてクラック確認 所々に凹みがあり 黄褐色粘土 (H10YR5/6 粘性強 しまり弱) を部分的に含む



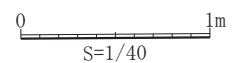
3. 4d区南壁



4. 4d区西壁



5. 4e区北壁



1	現代の盛土等				
地山層					
2	H10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	粘性弱・しまり強	径0.5-2cmの軽石を多く含む マンガン粒を少量含む 愛島軽石層
3	H10YR5/8	黄褐色	粘土	粘性強・しまり強	マンガン粒を多く含む 径1-2mmの黄色バミスをごく少量含む
4	H10YR6/6	明黄褐色	粘土	粘性強・しまり強	マンガン粒を多く含む、斑状に分布する
5	H10YR7/6	明黄褐色	シルト質粘土	粘性弱・しまり強	マンガン粒を斑状に多く含む 4層に比べて明るい。
6	H10YR7/8	黄褐色	粘土	粘性強・しまり強	径0.5-3cmの風化した礫をやや多く含む 径1-2cmの風化した礫を少量含む
7	H10YR6/8	明黄褐色	粘土	粘性強・しまり強	径1-2cmの風化した礫を少量含む
8	H10YR7/8	黄褐色	砂質シルト	粘性強・しまり弱	径0.5-3cmの風化した礫を非常に多く含む マンガン粒を多く含む

図8 青葉山地区確認調査状況3





1. 2 区全景（北から）



2. 2 区西壁土層北側断面拡大（東から）



3. 3 区全景（北から）



4. 3 区南壁土層断面（北から）



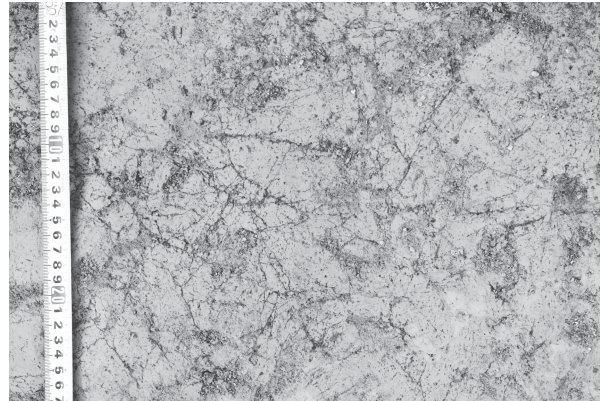
5. 4a 区全景（北から）



6. 4a 区南壁土層断面（北から）



7. 4b 区全景（北から）



8. 4b 区 3 層上面のクラック部拡大

図9 青葉山地区確認調査状況 4





1. 4b 区南壁土層断面（北から）



2. 4d 区全景（北から）



3. 4d 区西壁土層断面（東から）



4. 4e 区全景（南から）



5. 4e 区全景（西から）



6. 4e 区南壁土層断面（南から）



7. 5b 区全景（西から）



8. 5b 区西壁土層断面（西から）

図10 青葉山地区確認調査状況 5





図11 富沢地区調査地点

#### (4) 富沢地区の調査

富沢地区では、立会調査2件を実施した(図11)。

##### ・電子光物理学研究センター漏水復旧工事(2019-1)

7月26日に電子光物理学研究センターの敷地入り口より約30m中に入ったロータリー付近に湧水があることが認められ、当日午後に漏水調査を実施したところ、給水管に漏水があるとの結果が確認された。給水管が50年を経過したビニール管であり、大漏水の可能性もあるため、仙台市教育委員会文化財課と協議の上、7月29日に緊急漏水工事の立会調査を実施することになった。漏水箇所は樹木脇にあり、その木根を避けるため、樹木脇から4箇所掘削し、漏水箇所を確認した。掘削箇所は既存管の掘方の範囲内に収まり、特に問題なかった。

##### ・電子光物理学研究センター漏水復旧工事(2019-8)

2020年2月3日に電子光物理学研究センターの受水槽用ポンプ室前付近に水溜りがあることが判明し、同日の午後に漏水調査を実施したところ、給水管に漏水があることが確認された。上記と同じ理由で大漏水の可能性もあるため、仙台市教育委員会文化財課と協議の上、2月7日に漏水復旧工事を行った。漏水箇所は、既存柵や既存管が集中する箇所であるため、その掘削に伴う造成土の範囲内に収まり、特に問題はなかった。

## 2. 遺物整理作業

### (1) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点(BK14)の整理作業

本調査は、仙台市営地下鉄東西線川内駅前広場整備工事に伴うものである。2011・2012年度、2014・2015年度と、他の調査との兼ね合いによる一時中断をはさんで調査を進めた。この調査では、井戸や建物跡、溝、柱列などの近世の遺構が多数検出され、遺物も近世の陶磁器、土器、瓦、木製品などがコンテナ79箱分出土している。

遺構編については2018年度に『調査報告』7として刊行した。2019年度は、出土遺物について報告書としてとりまとめる作業を行った。前年度までに、全遺物の分類・接合・集計などの基礎的な作業を終了しており、一部の遺物の実測作業を進めていた。本年度は、磁器・陶器・土製品・金属製品・木製品など、残るすべての遺物の実測図作成、写真撮影などの図化作業と、資料観察・分析・属性抽出などの作業を行っている。また、その他の有機質の遺物等については、各専門家に分析を依頼しており、それらを取りまとめ、報告書に掲載した。報告書作成作業が終わった遺物については、それぞれ登録番号を付して、当室において収蔵・保管を行っている。

### (2) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点(BK15)の整理作業

本調査は、課外活動施設新営に伴い、2012～2014年度に実施した。本調査では、調査面積が1503㎡と広く、多種多様な近世の遺構が検出されている。それに伴う遺物も、近世の陶磁器、瓦、木製品等がコンテナ115箱と非常に多く出土している。2018年度は発掘調査時の空撮測量図面や手書き遺構図面の整理等の作業を行っている。遺物については、前年度までに注記作業を終わらせており、本年度は、種類別の分類作業などを行った。

### (3) 青葉山E遺跡第10次調査(AOE10)の整理作業

本調査は、仙台市営地下鉄東西線青葉山駅の屋外環境整備(駅前広場)に伴い2015年度に実施した。調査面積は56.9㎡で、遺物は縄文時代中期の土器や石器を中心に、コンテナ5箱分が出土している。2018年度は、測量図面の整理、調査写真の整理、遺物の注記等の作業を行っている。



### 3. 年次報告・調査報告の刊行

2019年度は、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2018を印刷刊行した。この『年次報告』2018には、2019年度に調査室が行った各種事業と、立会調査8件の概要を掲載した。

### 4. 保存処理事業

当室では、仙台北城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品等、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この中で、木製品・金属製品については、当室で保存処理を進めている。

木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（『調査年報』16）。一部の大型製品を除くと、2010年度までの調査で出土した木製品については、保存処理は終了している。2011年度以降、2015年度まで規模の大きな発掘調査が継続しており、木製品も多数出土した。2019年度は、2011～2015年度の調査のうち、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）、第15地点（BK15）については、分類や集計作業が終わり、図化しない抽出外木製品の保存処理作業を引き続き行った。また、報告書を刊行した仙台北城跡二の丸地区第18地点（NM18）、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16）については、図化して報告した木製品についての保存処理を引き続き行った。

銅製品は、武家屋敷地区第14地点から出土した報告書に掲載予定の遺物について、クリーニング作業を行った。また、保存処理体制が整う2000年度以前の調査で出土した銅製品を再確認したところ、未処理のままとなっていた資料が若干確認された。そのため2012年度から計画的にこれらの銅製品の保存処理作業を行っており、2019年度も未処理となっていた銅製品の処理を行った。また、2015年度に報告書の刊行を終えた仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16：『調査報告』5）の調査で出土した銅製品の処理作業を継続している。

鉄製品については、武家屋敷地区第14地点出土のうち、報告書に掲載予定の遺物について、クリーニング作業を行った。釘をはじめとして大量の遺物が出土しているが、図化して報告した資料以外は、ほとんどが未処理のままである。前年度に引き続き、これら未処理のままとなっていた鉄製品の状況を確認するとともに、保存処理を行っている。また、鉄製品についても、2015年度に報告書を刊行した仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16：『調査報告』5）の調査の保存処理作業を継続している。

また、武家屋敷地区第14地点では、箕や網代などの有機質素材が用いられている遺構を検出した。これらは調査時に発泡ウレタンを用いて、箕や網代の編み方を壊さないようにそのまま取り上げている。これら特殊な有機質資料については、PEG（ポリエチレングリコール#4000）を用いて保存処理を行った。PEG溶液を20%濃度から資料表面に塗布し、徐々に濃度を上げながら資料表面全体がPEGで白く固化するまで塗布を続けた。白く固化したPEGをドライヤー等で溶かして資料表面を露出し仕上げを行っている。

### 5. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンコー社製サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。また2009年度より、収蔵用の箱に木製箱を採用している。油脂製のコンテナは、火災の際に甚大な被害を受けるのに対して、木製箱は耐熱性が高く火災時に燃焼するまでの時間が長いことが明らかとなっている。そのため当室では、整理作業後の収蔵保管にあたっては、油脂製箱から木製箱へ取り替えていくこととし、2009年度から一部は木製箱へ詰め替えを行っている。2019年度までに、247箱分について、木製箱に詰め替える作業を終えている。

遺物の全体量を把握するために、容器の種類や大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品等保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、この中には含まれていない。埋蔵

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

年 度	未整理箱数	整理済箱数	合計箱数	備 考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報1（1983年度調査分）刊行
1985	113	108	221	年報2（1984年度調査分）刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報3（1985年度調査分）刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報4・5（1986・87年度調査分）刊行
1992	463	1,028	1,491	年報6（1988年度調査分）刊行
1993	732	1,032	1,764	年報7（1989年度調査分）刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報8（1990年度調査分）刊行
1997	435	1,491	1,926	年報9・10（1991・92年度調査分）刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12（1993・94年度調査分）刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13（1995年度調査分）刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16（1996・97・98年度調査分）刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17（1999年度調査分）刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18（2000年度調査分）刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19-1・20（2001・02年度調査分）刊行
2006	467	2,391	2,858	年報19-3・21（2001・03年度調査分）刊行
2007	281	2,507	2,788	年報19-4・22（2001・04年度調査分）刊行
2008	198	2,619	2,817	年報19-2・23（2001・05年度調査分）刊行
2009	34	2,790	2,824	年報19-5・24（2001・06年度調査分）刊行 地下鉄補償関係調査整理作業終了
2010	34	2,790	2,824	
2011	78	2,790	2,868	調査報告1（武家屋敷地区第11・12地点）刊行
2012	65	2,836	2,901	調査報告2（武家屋敷地区第13地点）刊行
2013	116	2,838	2,954	調査報告3（芦ノ口遺跡第7・8次調査）刊行
2014	254	2,843	3,097	調査報告4（青葉山E遺跡第9次調査・芦ノ口遺跡第9次調査）刊行
2015	319	2,857	3,176	調査報告5（武家屋敷地区第16地点）刊行
2016	277	2,899	3,176	調査報告6（仙台城跡二の丸地区第18地点）刊行
2017	277	2,899	3,176	
2018	277	2,899	3,176	調査報告7（武家屋敷地区第14地点調査遺構編）刊行
2019	198	2,941	3,139	調査報告8（武家屋敷地区第14地点調査遺物・考察編）刊行

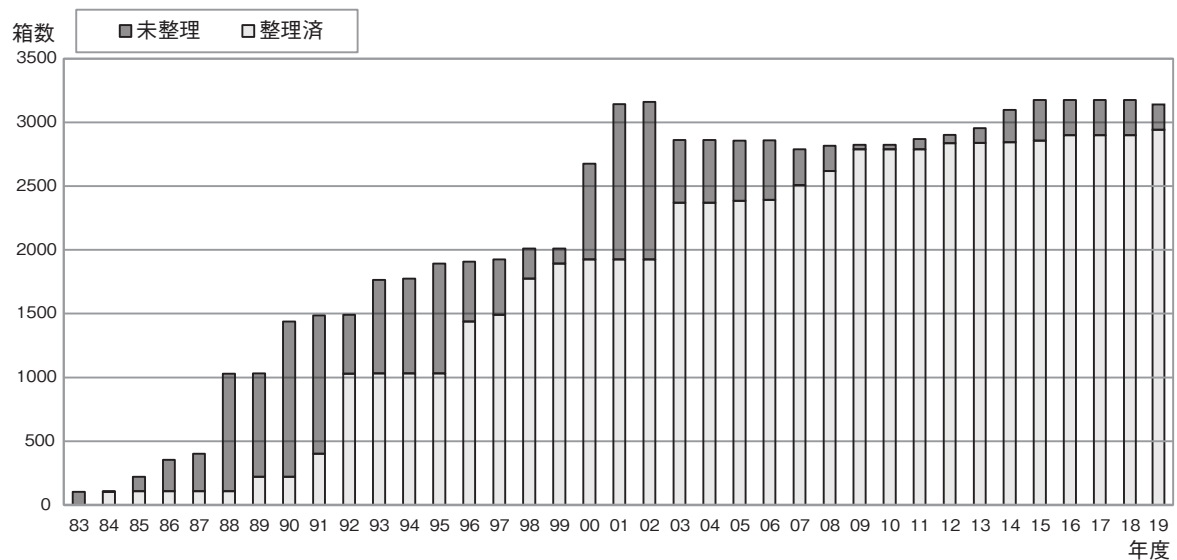


図12 収蔵遺物量の推移

文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4、図12である。

2019年度の調査によって、新たに増加した箱数はない。2019年度は、武家屋敷地区第14地点の整理作業が完了し、整理前79箱であったが報告書完了後の箱数は42箱となった。そのため、整理報告済みの箱数は2941箱となり、未整理のものは198箱、合計の遺物総量は、3139箱であり、整理・報告済みのものの比率は93.7%である。

## 6. 研究活動

### (1) 受託研究・共同研究等

2019年度は、調査室の業務に関わる受託研究・共同研究はなかった。

### (2) 学会発表等

2019年度は、調査室の業務に関わる学会での発表はなかった。

### (3) 科学研究費等外部資金採択状況

- ・柴田恵子 学術研究助成基金助成金・基盤研究（C）（研究課題番号19K01123）「基礎構造分析に基づいた近世漆塗製品の保存処理及び形態・組成に関する研究」（直接経費1,500,000円、間接経費450,000円）  
研究代表者

## 7. 教育普及活動

### (1) 非常勤講師

- ・菅野智則 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学各論・特論Ⅳ（後期）「先史文化の考古学」

### (2) 取材・協力等対応

- ①施設部から依頼を受けインターンシップ3名の対応を行った。8月8日に「東北大学構内における埋蔵文化財」に関する説明を行い、出土品等について解説した。
- ②昨年度実施された広島大学総合博物館第13回企画展「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」の冊子作成に協力した。

### (3) 構内の文化財・当室の業務内容の紹介

- ①東北大学歴史遺産マップの作成 キャンパスデザイン室、史料館と共に本学の歴史遺産に関するマップを作成した。当初はテクルベに掲載されていたが、2020年4月末閉鎖となったため、当室のwebに掲載している。  
<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/15historymap.htm>
- ②当室の業務内容と仙台市内のキャンパス内の埋蔵文化財を紹介するパンフレットを作成した。展示会場や講演等で配布している。

### (4) 専門知識・技術の提供等を通じた授業・社会貢献

- ①6月16・22・23・29・30日 東北大学総合学術博物館から依頼を受け、富沢団地内の芦ノ口遺跡の発掘調査に協力を行った。
- ②9月17日 東北大学総合学術博物館から依頼を受け、博物館実習Ⅵ（館園実習）に協力し、「埋蔵文化財調査室における収蔵と管理」について説明すると共に、当室の施設について解説を行った。その概要については、総合学術博物館のニュースレター「Omnividens」61号に掲載されている。参加者は18名だった。

③10月23日 青葉山（植物園）内にある、川内古碑群を対象として、「ひかり拓本」に関する実習を行った。  
参加者は17名だった。

主催：東北大学災害科学国際研究所、東北大学埋蔵文化財調査室、共催：指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点、歴史文化資料保全の大学・共同利用期間ネットワーク事業東北大学拠点、協力：東北大学植物園

④10月28日～11月3日 文学研究科考古学研究室から依頼を受け、宮城県村田町姥沢遺跡の発掘調査について協力をを行った。

⑤11月14日 川内北キャンパスの仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土の昆虫資料を元として、森勇一先生（東海シニア自然大学 講師）を講師として招き、講習会を開催した。

#### (5) 展示活動

①常設展示「かわうち今昔物語」会場：東北大学川内萩ホール

この事業は、2011年度から継続的に実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。2016年度より、本学総務企画部広報課社会連携推進室編集・発行のまなび情報誌「まなぶひと」において広告を掲載している。また、川内萩ホールのホームページでも紹介されている。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/facility/gallery.html>

②特別合同展示「東北大学の過去から現在へ」

会場：東北大学附属図書館 会期：9月11日（水）～10月3日（日）

東北大学附属図書館、史料館、植物園と共同で主催とした。

また、ホームカミングデーに合わせ9月28日（土）・29日（日）にミニ講演会を実施した。

③新入生歓迎展示「川内歴史さんぽ」

会場：東北大学附属図書館 会期：2020年3月24日（火）～5月7日（木）

東北大学附属図書館、史料館と共同で主催した。

#### (6) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等

①仙台市博物館 企画展「やっぱり絵図がすき！」への写真の借用・掲載依頼

仙台城跡二の丸地区 写真4点

②仙台市博物館 『「仙台市史」活用資料集Vol.8』への写真の借用・掲載依頼

仙台城跡二の丸地区 写真1点、青葉山E遺跡 写真1点、青葉山A遺跡 写真1点

③地底の森ミュージアム 企画展「仙台の遺跡めぐり きみのまわりの旧石器」への写真の借用・掲載依頼

芦ノ口遺跡 写真1点

④青葉山・八木山フットパスの会 作成パネルへの写真借用・掲載依頼

青葉山A遺跡 写真1点

⑤村田町歴史みらい館 企画展「猫にお願いー東北地方の猫神・猫絵馬・猫供養ー」への遺物貸出

仙台城跡二の丸地区出土 土人形（猫）1点

⑥資料調査 1件

「相馬藩における近世窯業生産の展開」『東北大学埋蔵文化財調査年報10』東北大学埋蔵文化財調査研究センター編に掲載されている陶磁器資料等の見学依頼があった。見学者は7名だった。

## (7) 外部からの派遣依頼

担当者：石橋 宏

- ①東北大学ヨットインフォマティクス研究センター研究助成「古墳・石室を対象とした3D・CTスキャンデータに基づく認知的解釈」（代表：鹿又喜隆 東北大学）研究協力者

12月2日・3日・4日 島根県安来市飯梨小学校校庭に移設された、安来市鷺の湯病院1号横穴出土家形石棺の3次元計測を行うため、棺身の埋設された部分を掘り出し、外面写真撮影による3次元計測を補助した。

- ②島根大学法文学部山陰研究プロジェクト「山陰地方における既掘考古資料の再検討による歴史文化遺産の活用と地域還元」（代表：岩本崇 島根大学）客員研究員（新型コロナウイルス感染症対策のため活動中止）

## (8) その他の広報活動

- ①調査室ウェブサイト (<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>)

この事業は、2011年度から実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。本年度も継続的に更新し、当室発行のリーフレット「埋蔵文化財調査室だより」や、様々なイベントについて掲載している。

- ②全国遺跡報告総覧 (<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>) における発掘調査報告書の公開

この事業には、2010年度に本学附属図書館が参加し、当室も当初の年度より附属図書館に協力している。全国遺跡報告総覧には、当室の調査報告書・年次報告書等を継続してアップロードし公開している。また、2016年度からは、附属図書館から依頼を受け、当室が中心となって本事業を進めている。

## 8. 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊』の訂正

2019年度に刊行した『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告8について、明らかな訂正があることが判明した。刊行と同時に作成し送付等している正誤表では漏れていたため、それらを含めて本年次報告にて訂正したい（表5）。とくに、図版に大きな間違いがあり、該当する原稿を執筆頂いた森勇一先生にお詫び申し上げたい。

表5 『調査報告』8の訂正

頁	行	誤	正
61	図43	11層 WT5~6	11層 WT5~7
109	表39	T19 20層遺構	T19 20号遺構
180	1行目	BK-2号池状遺構も	BK14-2号池状遺構も
247	図版84	6. ヒメカツオブシムシ <i>ReitterAttagenus unicolor japonicus</i> 右上翅片 長さ4.0mm (試料20 標本14)	6. アリ科 <i>Formicidae</i> gen. et sp. indet 頭部 長さ1.4mm (試料23 標本15)
247	図版84	6. オオクロバエ <i>CoquillettCalliphora lata</i> 胴蛹片 長さ5.0mm (試料4 標本33)	7. ヒメカツオブシムシ <i>ReitterAttagenus unicolor japonicus</i> 右上翅片 長さ4.0mm (試料20 標本14)
247	図版84	8. アリ科 <i>Formicidae</i> gen. et sp. indet 頭部 長さ1.4mm (試料23 標本15)	8. オオクロバエ <i>CoquillettCalliphora lata</i> 胴蛹片 長さ5.0mm (試料4 標本33)



## 9. 資料紹介－「仙台陸軍教導学校」『各部隊配置図・国有財産台帳附図』より－

旧日本陸軍の仙台師管区経理部によって作成された『各部隊配置図・国有財産台帳附図』中の「仙台陸軍教導学校」図面について紹介する（図13）。この仙台陸軍教導学校は、現在の川内北キャンパスに位置していたことから、本学の前史として、その歴史性を把握するためには重要な資料と考え、紹介するものである。

本書で掲載するにあたり、版面の都合で縮尺を1/1200とした。また、この図には記号の凡例がないが、二本の破線は排水管、それと接続する「□」は枡、矢印のついた線は水道管と考えられる。「●」に2条の線が描かれる記号については不明である。全部で18点あり、建物の裏手等に位置している。それから、文字はなるべく原図と同様の位置に配置したが、右横書きから左横書きに変更し、現代の常用漢字に改めている。また、版面の都合で小さくなったため、全ての文字は原位置ではなく、空白が無いために文字が記載できない場合は、引出線を付けた。読み取れない文字については「■」、疑問がある文字については「?」を付けた。

本資料を含む全体の内容については、すでに佐藤雅也氏によって紹介されている（佐藤2000）。佐藤氏は、掲載されている施設名から、この資料は「昭和15年以降昭和18年7月以前の時期」に作成されたものと推定している。なお、本資料は、仙台市歴史民俗史料館に保管されている複製資料に基づいたものである。

昭和9（1934）年に刊行された『仙台陸軍教導学校要覧』によると、仙台陸軍教導学校がこの地に入る前は歩兵第29連隊の兵営であった。1925（大正14）年に同連隊が福島県会津若松に転営した後は、この地は「空兵営」となる。そして、昭和2（1927）年6月30日の勅令第212号陸軍教導学校令の発令後、7月1日に第二師団司令部内に創立のための臨時事務所が設置され、業務が開始される。7月30日には、その空の兵営に第一期生が入校した。この学校の目的は、「歩兵（騎兵砲兵科）現役下士官ト為スヘキ學生ヲ教育ス」というものであり、精神教育、内務及初勤務の教育、術科教育、軍事学の4つを一年間で学ぶことになる。この『要覧』が刊行されるまでの時期に第7期までの学生が卒業しており、刊行された時には最大で最後の第7期生596人が学んでいた。職員数は、将校同相当官34名、准士官10名、下士官59名、兵15名、嘱託5名、判任文官2名、雇員6名、傭人51名となり、合計182名となる。学生定員は600名だったようであるから、かなり大規模な学校であったことがわかる。

その後、仙台陸軍教導学校は、1938（昭和13）年の勅令第139号陸軍予備士官学校令に基づいてその内部に陸軍予備士官学校が設置された後に、1943（昭和18）年に廃止された。その際に、仙台陸軍予備士官学校が設置され、1945（昭和20）年8月の第二次世界大戦終戦まで続いた。

今回紹介する図面の右下には、口座番号、名称、所在地、面積、縮尺が記されている。佐藤氏によりすでに提示されているが、それぞれの記載内容を示すと、「七、仙台陸軍教導学校、宮城県仙台市川内中ノ坂道三番 川内大橋通十二番、二〇八七五坪、六百分ノ一」となる。また、仙台陸軍教導学校敷地外には、南側に「師団構内」、北側に「野砲兵第二連隊敷地」、西側に「輜重兵第一連隊敷地」、東側に「扇坂練兵場」と記載されており、相対的な配置関係を示している。測量方法は不明ではあるが、縮尺と方位も示されているから、ある程度の精度で作成されていたものと考えられる。

現在、川内北キャンパスにおいて地下鉄東西線国際センター駅から扇坂バス通りを登っていくと、その通りから右手の方に大学生協方面に入る道がある。第二師団期は、その道の入口部が表門にあたる。第二次大戦後に米軍がキャンプ・センダイの造成をする際に、かなり地形改変が行われているが、その様な所に、第二師団期の痕跡が現在もなお残されている。

### 謝辞

仙台市歴史民俗資料館の畑井洋樹氏・佐藤雅也氏には本資料の利用にあたって、格別の配慮を頂いた。記して御礼申し上げます。

## 輜重兵第一連隊敷地



師 団 構 内





## 〈引用・参考文献〉

- 梶原洋・佐川正敏・佐久間光平ほか 1986『東北大学埋蔵文化財調査年報』 2 東北大学埋蔵文化財調査委員会
- 佐藤雅也 2000「資料紹介－「仙台市管区経理部『各部隊配置図・国有財産台帳附図』」について－」『足下から  
みる民俗（9）』 調査報告書第19集 仙台市歴史民俗資料館 pp.131－135
- 仙台市教育局生涯学習部文化財課 2005『仙台城跡整備基本計画』
- 仙台陸軍教導学校編 1934『仙台陸軍教導学校要覧』
- 藤澤 敦・関根達人・菊池佳子ほか 2000『東北大学埋蔵文化財調査年報』 13 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
- 藤澤 敦・関根達人・京野恵子ほか 2001『東北大学埋蔵文化財調査年報』 14 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
- 藤沢 敦・柴田恵子・菅野智則ほか 2012『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』 2010 東北大学埋蔵文化財調査室
- 藤沢 敦・柴田恵子・菅野智則ほか 2014『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』 2012 東北大学埋蔵文化財調査室
- 直接引用したもののみを掲載した

## IV. 資料

### 1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

室長

文化財調査員

特任准教授

事務職員

その他の職員

(室長)

第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。

2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議を経て、総長が行う。

4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(文化財調査員)

第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。

2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 キャンパス総合計画委員会の委員 若干人

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人

三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの

四 施設部長

(委員長)

第8条 委員長は、室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会の会務を総理する。

3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。  
(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。
- 2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。
- 3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

- 1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。
- 2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月23日規第56号改正）

この規程は、平成25年4月23日から施行し、改正後の第7条第1号の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月23日規第18号改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月28日規第64号改正）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

## 2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2019年度）

委員長	室 長（学術資源研究公開センター 教授）	藤 澤 敦
委 員	キャンパス総合計画委員会（川内キャンパス環境整備協議会 教育学研究科長）	八 鉦 友 広
	キャンパス総合計画委員会（青葉山キャンパス環境整備協議会 理学研究科長）	寺 田 眞 浩
	キャンパス総合計画委員会（キャンパスデザイン室 特任教授）	杉 山 丞
	学術資源研究公開センター 准教授	高 嶋 礼 詩
	文学研究科 教 授	阿子島 香
	文学研究科 教 授	柳 原 敏 昭
	文学研究科 准教授	鹿 又 喜 隆
	文学研究科 准教授	堀 裕
	工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
	災害科学国際研究所 准教授	佐 藤 大 介
	施 設 部 長	高 橋 勝 治
幹 事	施 設 部 計画課長	森 屋 昭 則

## 3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2019年度）

委員長	室 長（学術資源研究公開センター 教授）	藤 澤 敦
委 員	学術資源研究公開センター 准教授	高 嶋 礼 詩
	文学研究科 教 授	阿子島 香
	文学研究科 教 授	柳 原 敏 昭
	文学研究科 准教授	鹿 又 喜 隆
	文学研究科 准教授	堀 裕
	工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
	災害科学国際研究所 准教授	佐 藤 大 介
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員（特任准教授）	菅 野 智 則
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	柴 田 恵 子
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	石 橋 宏
	施 設 部 計画課長	森 屋 昭 則



## 4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

### 《東北大学埋蔵文化財調査年報》

書 名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報 1	1985	昭和58年度（1983年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第1地点（NM1）	
		仙台城跡二の丸第2地点（NM2）	
		仙台城跡二の丸第3地点（NM3）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 2	1986	昭和59年度（1984年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		青葉山B遺跡第1次調査（AOB1）	
		青葉山B遺跡第2次調査（AOB2・旧称AOF）	
		青葉山E遺跡第1次調査（AOE1）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 3	1990	昭和60年度（1985年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第6地点（NM6）	
		芦ノ口遺跡第1次調査（TM1）	
		芦ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査（TK） 研究編－東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題ほか	
東北大学埋蔵文化財調査年報 4・5	1992	昭和61年度（1986年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		昭和62年度（1987年度）事業概要	
		仙台城跡二の丸第4地点（NM4）	
		仙台城跡二の丸第7地点（NM7）	
		仙台城跡二の丸第8地点（NM8）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 6	1993	昭和63年度（1988年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第5地点（NM5）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 7	1994	平成1年度（1989年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第5地点（NM5）付帯施設部分	
		仙台城跡二の丸第5地点（NM5）調査成果の検討	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点（BK5）	
		川渡農場町西遺跡第1地点（KW1）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 8	1997	平成2年度（1990年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第9地点（NM9）	
東北大学埋蔵文化財調査年報 9	1998	平成3年度（1991年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第10地点（NM10）	
		芦ノ口遺跡第2次・3次調査（TM2・TM3）	
		考察編－仙台城二の丸跡の考古学的調査－	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1998	平成4年度（1992年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第13地点（NM13）	
		青葉山地区分布調査	
		研究編－相馬藩における近世窯業生産の展開	
東北大学埋蔵文化財調査年報11	1999	平成5年度（1993年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第12地点（NM12）	
		仙台城跡二の丸第14地点（NM14）	
		青葉山E遺跡第2次調査（AOE2）	
東北大学埋蔵文化財調査年報12	1999	平成6年度（1994年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第15地点（NM15）	
		青葉山E遺跡第3次調査（AOE3）	
東北大学埋蔵文化財調査年報13	2000	平成7年度（1995年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第11地点（NM11）	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点（BK4）	
		青葉山E遺跡第4次調査（AOE4）	
		研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	
東北大学埋蔵文化財調査年報14	2001	平成8年度（1996年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点（BK6）	
		青葉山E遺跡第5次調査（AOE5）	
		芦ノ口遺跡第4次調査（TM4）	
東北大学埋蔵文化財調査年報15	2001	平成9年度（1997年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第16地点（NM16）	
		青葉山E遺跡第6次調査（AOE6）	

書 名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	平成10年度（1998年度）事業概要 研究編－糖アルコール含浸法における予備実験	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2002	平成11年度（1999年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2005	平成12年度（2000年度）事業概要 仙台城跡二の丸第17地点（NM17）	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度（2001年度）事業概要 芦ノ口遺跡第5次調査（TM5） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 遺構	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 木簡・墨書ある木製品	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） その他の遺物	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 分析・考察	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度（2002年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点（BK8） 青葉山E遺跡第7次調査（AOE7） 青葉山E遺跡第8次調査（AOE8）	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度（2003年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点（BK9） 芦ノ口遺跡第6次調査（TM6）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度（2004年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度（2005年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報24	2010	平成18年度（2006年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点（BK10） 青葉山新キャンパス地区試掘調査	東北大学埋蔵文化財調査室

《東北大学埋蔵文化財調査室調査報告》

シリーズ名	書 名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告1	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点 －仙台市高速鉄道東西線機能補償関係調査報告書－	2011	東西線補償関係埋蔵文化財調査の概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12） 川内地区の絵図記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告2	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点	2013	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（BK13）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告3	芦ノ口遺跡第7次調査・第8次調査	2014	芦ノ口遺跡第7次調査（TM7）・第8次調査（TM8）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告4	芦ノ口遺跡第9次調査・青葉山E遺跡第9次調査－東日本大震災復旧事業関係調査報告書－	2015	芦ノ口遺跡第9次調査（TM9）・青葉山E遺跡第9次調査（AOE9）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告5	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点	2016	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告6	仙台城跡二の丸地区第18地点	2017	仙台城跡二の丸地区第18地点（NM18）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告7	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊	2019	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告8	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊	2020	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）	東北大学 埋蔵文化財調査室

《東北大学埋蔵文化財調査室年次報告》

書 名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度（2007年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度（2008年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度（2009年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度（2010年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度（2011年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012	2014	平成24年度（2012年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2013	2015	平成25年度（2013年度）事業概要 芦ノ口遺跡第10次調査（TM10）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2014	2016	平成26年度（2014年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2015	2017	平成27年度（2015年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2016	2018	平成28年度（2016年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2017	2019	平成29年度（2017年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2018	2020	平成30年度（2018年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2019	2021	令和元年度（2019年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

\*これらの刊行物は、東北大学機関リポジトリTOURおよび全国遺跡報告総覧で全て公開している。  
 東北大学機関リポジトリTOUR <https://tohoku.repo.nii.ac.jp>  
 全国遺跡報告総覧 <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>

---

---

東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2019

令和3年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1  
TEL 022 (217) 4995

印刷 株式会社 東北プリント  
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24  
TEL 022 (263) 1166

---

---